

県営高森地区土地改良事業計画書

(区画整理)

長野県

第1章 目的	1
第2章 地域及び地積	2
第1節 地域	2
第2節 地積	2
第3章 現況	3
第1節 気象	3
1 一般気象	3
2 特殊気象	4
第2節 土地状況	5
1 地形、土壌及び侵食の程度	5
2 土地分類	6
3 土地利用の状況	7
4 土地所有の状況	8
第3節 水利状況	9
1 用水状況	9
2 排水状況	12
3 河川状況	14
第4節 道路現況	15
1 道路概況	15
2 主要道路一覧表	15
第5節 地域農業の概況	16
1 産業別就業人口	16
2 経営耕地広狭別農家数及び主副業別農家数	16
3 動力農機具及び主要家畜頭数	17
4 主要作物作付状況	18
5 農業の動向	19
第6節 地域環境の概況	20
第4章 一般計画	21
第1節 事業計画の要旨	21
1 要旨	21
2 事業別面積	21
第2節 営農計画及び土地利用計画	22
1 営農計画の概要	22
2 土地利用区分	22
3 作付方式	23
4 生産計画	24
5 労働改善計画	25
6 級地別土地利用区分	25
第3節 用水計画	26

1 計画基準年	26
2 計画かんがい方式	26
3 計画用水系統	27
4 計画用水量	28
5 水源計画	29
第4節 排水計画	31
1 計画基準雨量	31
2 計画排水方式	31
3 計画排水系統	32
4 計画排水量	33
5 排水対策	33
6 湛水検討	34
第5節 道路計画	35
1 道路及び索道	35
2 路線配置図	36
第6節 農用地造成計画	37
第7節 洪水調節計画	37
第8節 農用地整備計画	37
1 区画整理	37
2 暗渠排水	38
3 客土	38
第9節 老朽ため池改修計画	38
第5章 主要工事計画	39
第1節 用水施設	39
1 貯水池	39
2 頭首工	39
3 揚水機	39
4 用水路	39
5 その他かんがい施設	39
第2節 排水施設	40
1 排水水門	40
2 排水機	40
3 排水路	40
4 その他排水施設	40
第3節 道路及び索道	41
1 道路	41
2 索道	41
第4節 農用地造成	42
第5節 洪水調節施設	42
第6節 農用地整備施設	42
1 区画整理	42

2 暗渠排水	42
3 客土	43
第7節 老朽ため池改修施設	43
第6章 附帯工事計画	44
第7章 工事の着手及び完了の予定時期	44
第8章 環境との調和への配慮	44
第9章 換地計画の概要	45
第1節 換地計画を作成する上での基本的な考え方	45
第2節 換地区の設定	45
1 換地区の名称、所在、面積	45
2 換地区を設定する理由	45
第3節 換地区計画樹立の基本方針	45
1 従前の土地の地積の基準	45
2 用途別予定地積	46
3 農用地集団化の方針	46
4 非農用地換地の方法	47
第4節 土地の評価及び積算の方法	47
1 評価の方法	47
2 清算の方法	47
第5節 換地計画樹立の年度計画	47
第6節 換地処分の時期に関する特則	47
第10章 事業費の総額及び内訳	48
第11章 効用	49
第12章 関連する事業	49
第13章 現況・計画図面	50
1 現況平面図	50
2 計画平面図及び土地利用計画図	50
3 主要構造図	50

第1章 目 的

本地区は、第1次農業構造改善事業により25 a程度の区画で整備された水田農業地帯である。現在、水稻を中心に牧草、そば、花卉等の栽培が行われているが、一方で湿害等耕作条件が悪い農地も多く、営農に支障を来している。そのため営農者の高齢化により多くの農家が貸出を希望するが、条件不利地により借手がいない状況となっている。

また、建設から50年以上経過した既設水路の劣化は著しく、漏水による用水不足や周辺農地の湿害にも繋がっていることから、農業経営の安定化および水路管理の省力化を図るためにも早急な整備を必要としている。

そのため本事業にて、条件不利地の解消や再整備による大区画化を図り、併せて農地中間管理事業を活用した中心経営体への農地集積・集約化を行うことにより、レタス、トマト等の高収益作物に転換し、持続可能な農業の推進を図ることを目的とする。

第2章 地域及び地積

第1節 地域

(第1表)

事業名	地 域
区画整理	諏訪郡富士見町

第2節 地積

(令和 6年12月現在) (第2表)

事業名	現況地目 市町村名	田 (ha)	畑 (ha)	原野 (ha)	山林 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備 考
区画整理	富士見町	30					30	
合 計		30					30	根拠：農地基本台帳

第3章 現況

第1節 気象

1 一般気象

(第3表-1)

観測所名	諏訪特別地域気象観測所	かんがい期	非かんがい期	計又は平均	備 考
観測期間	昭和40年～令和 5年	4月～ 9月	10月～ 3月		
平均気温 (°C)		18.3°C	3.8°C	11.0°C	
降水量	平均 (mm)	917mm	405mm	1,322mm	
	基準年 (mm)	755mm	535mm	1,290mm	(用水計画基準年 昭和42年)
降水日数	平均 (日)	91日	70日	161日	
	基準年 (日)	100日	79日	179日	(用水計画基準年 昭和42年)
根雪期間		—			
無霜期間		—			
最多風向		WNW	最大風速 (風向)	22.3m/s (S)	最多風向発生時期 9月～ 4月 最大風速発生年月日 昭和34年 9月27日

2 特殊気象

(第3表-2)

観測所名	第1位			第2位			第3位			第4位			第5位			備考
観測期間	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	
昭和40年～令和5年																
最大日雨量 (mm)	161.5	S58.9.28	1/200	149.5	R3.8.14	1/70	148.0	H18.7.18	1/70	142.2	S20.10.5	1/12	134.7	S24.9.23	1/12	
最大時間雨量 (mm)	74.5	H25.8.15	1/200	68.5	S30.7.21	1/12	66.0	S45.7.27	1/12	65.5	R4.8.5	1/70	63.0	S51.7.27	1/30	
最大4時間雨量 (mm)	88.9	S58.8.28	1/200	81.4	H18.7.18	1/80	66.3	S47.7.10	1/12	65.8	S60.6.30	1/12	65.2	S46.9.6	1/11	
最大連続雨量 (mm)	133.6	H6.9	1/300	132.8	S48.6	1/80	110.4	H4.4	1/70	108.8	S62.9	1/10	96.8	H29.7	1/14	
最大連続干天日数 (日)	38	S42.6.17	1/200	30	S60.9.5	1/30	29	H7.8.20	1/20	26	S48.7.28	1/15	26	H2.9.12	1/10	

第2節 土地状況

1 地形、土壌及び侵食の程度

[地形]

(第4表-1-1)

事業名	地目	田						畑・その他						受益地標高 (m)		備考
	傾斜区分	1/1,000 未満	1/1,000 ～ 1/100	1/100 ～ 1/20	1/20 ～ 1/11.5	1/11.5 以上	計	3° 未満	3° ～ 8°	8° ～ 15°	15° ～ 20°	20° 以上	計	最高	最低	
区画整理	面積 (ha)				30		30							1020	950	
	比率 (%)				100		100									

[土壌]

(第4表-1-2)

項 目 土壌統(区)名	土壌統(区)区分一覧表							面積(ha)		備考	
	土壌断面							事業名			
	色	腐 植	礫 層	酸 化 沈 殿 物	土 性			泥炭層 黒泥層 及びグライ層	区画整理		計
					表土	下層土					
					一層	二層	三層				
松沢統	7.5YR3/2 7.5YR2/2	すこぶる富む 富む	なし	含む	L	L		泥岩層なし	30	30	
計									30	30	

[侵食の程度]

該当なし

2 土地分類

該当なし

3 土地利用の状況

(令和 6年11月現在) (第4表-3)

事業名	土地利用 区分 市町村名	耕地							採草 放牧地 (ha)	原野 (ha)	山林 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備 考
		水田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草畑 (ha)	果樹園 (ha)	茶園 (ha)	その他の 樹園地 (ha)	小計						
区画整理	富士見町	30						30					30	
合計		30						30					30	

4 土地所有の状況

(令和 6年11月現在) (第4表-4)

事業名	所有別 区分	個人有			共有	法人有	計	備 考
区画 整理	面積 (ha)	18.8	4.9	4.4		1.9	30.0	
	受益者数 (人)	55	(3) 5	[1] (1) 6		2	63	[]は個人有賃貸借権と重複で内数 ()は個人所有権と重複で内数
	筆数 (筆)	88	24	20		8	140	
	権利関係	所有権	賃貸借権	使用貸借権	所有権	賃貸借権 使用貸借権		
	備考 (関係戸数)	55	5	6		2	68	
合 計	面積 (ha)	18.8	4.9	4.4		1.9	30.0	
	受益者数 (人)	55	(3) 5	[1] (1) 6		2	63	
	筆数 (筆)	88	24	20		8	140	
	権利関係	所有権	賃貸借権	使用貸借権	所有権	賃貸借権 使用貸借権		
	備考 (関係戸数)	55	5	6		2	68	

第3節 水利狀況

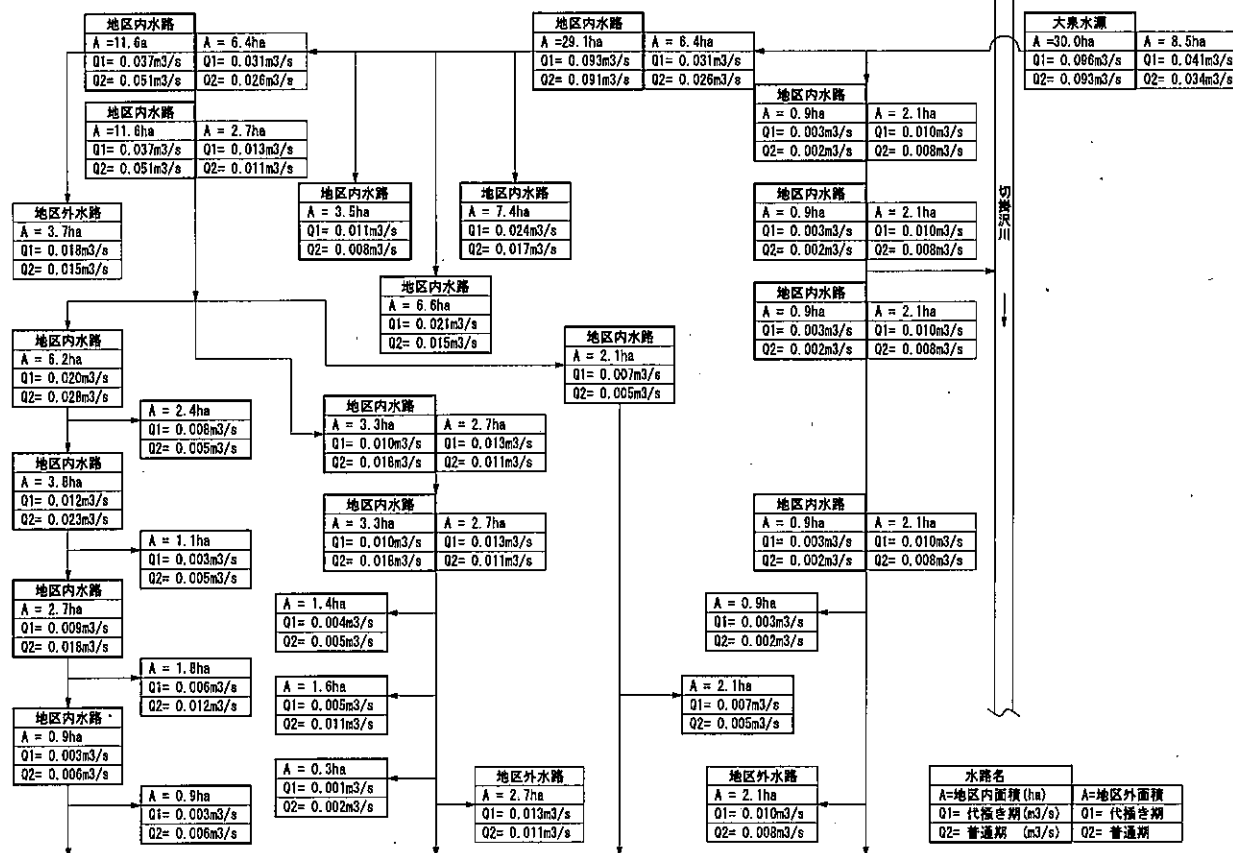
1 用水狀況

受益農地への農業用水は、大泉水源から取水し、地区内の各ほ場に配水されている。

整備後50年以上経過した水路は老朽化が激しく、漏水による用水不足や周辺農地への湿害等の被害が生じている。

(1) 用水系統

用水路工 用水系統模式圖（現況）



(2) 用水施設

(ア) 取水方法一覧表

(第5表-1)

事業名	項目 施設名	かんがい面積						計		許可水利権		慣行水利権等		延べ取水量	備 考
		500ha以上		500～100ha		100ha未満									
	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	m ³ /s	箇所	m ³ /s	m ³ /s		
区画 整理	貯水池														
	井堰														
	自然取入口														
	揚水機														
	その他					1	30	1	30			1	0.186	0.186	湧水地より取水
	計					1	30	1	30			1	0.186	0.186	
合計						1	30	1	30			1	0.186	0.186	

(イ) 改修を要する施設一覧表

(第5表-2)

事業名	項目	施設名 又は 箇所数	受益面積 (ha)	構造	規模	新設年度 又は 更新年度	改修を必要 とする理由	備 考
	施設名							
区画 整理	貯 水 池							
	井 堰							
	自然取入口							
	揚 水 機							
	用 水 路	1	30	コンクリート 二次製品	L=3,740m	S45年	老朽化	
	そ の 他							
	計							
合 計								

(3) 用水に関する被害状況

該当なし

(4) ため池決壊の場合の想定被害状況

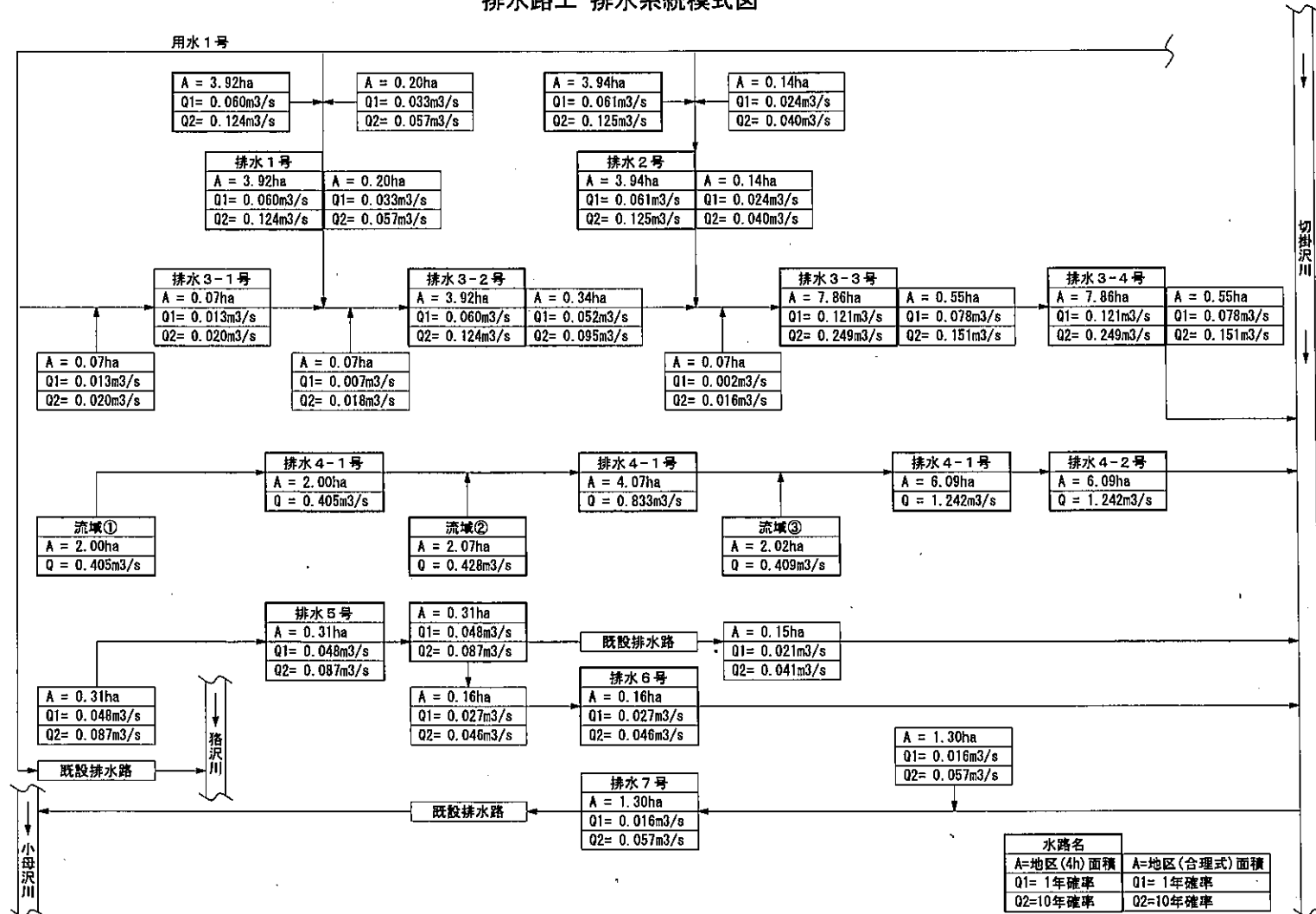
該当なし

2 排水状況

既設排水路により一級河川富士川水系切掛沢川、猪沢川、小母沢川に自然排水している。

(1) 排水系統

排水路工 排水系統模式図



(2) 排水施設

(ア) 排水方法一覧表

(第5表-4)

事業名	項目		排水面積						計		排水慣行	現況排水能力	備 考
			500ha以上		500～100ha		100ha未満						
	施設名	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	(m³/s)	(m³/s)		
区画 整理	自然	排水路					1	30.0	1	30.0		0.203～0.051	
		水門											
	機械	排水機											
		水門及び排水機											
		排水路及び排水機											
	計						1	30.0	1	30.0		0.203～0.051	
	合計						1	30.0	1	30.0		0.203～0.051	

(イ) 改修を要する施設一覧表

(第5表-5)

事業名			施設名又は 箇所数	受益面積 (ha)	構造	規模	新設年度 又は 更新年度	改修を必要 とする理由	備 考
区画 整理	自然	排水路	1	30.0	コンクリート 二次製品	L=2, 120m	S45年	老朽化	
		水門							
	機械	排水機							
		水門及び排水機							
		排水路及び排水機							
	計								
	合計								

(3) 排水に関する被害状況
該当なし

3 河川状況

排水を予定している猪沢川、小母沢川は河川改修済み、切掛沢川は高速道路横断部のみ一部改修済である。

(1) 河川状況

(第5表-7)

河川名	項目 流路状況	勾配	断面	計画洪水量 (m^3/s)	既往最大洪水量 (m^3/s)	備考
猪沢川	改修済	1/9	上幅=3.1m、下幅=2.0m H=1.1m			1級河川富士川水系
小母沢川	改修済	1/14	上幅=0.6m、下幅=0.6m H=0.7m			1級河川富士川水系
切掛沢川	一部改修済	1/14	上幅=10.6m、下幅=7.2m H=3.4m			1級河川富士川水系

(2) 洪水に関する被害状況

該当なし

第4節 道路現況

1 道路概況

本地区は、中央に主要地方道の茅野北杜菰崎線（県道）が横断している。また南に町道5423号線（オアシス道）の終点部が茅野北杜菰崎線と合流し、地区東端を通る町道小六鳥帽子線とも交差しており、地区の生活道路や集出荷場への輸送路としても欠かせない道路となっている。

その他の地区内道路は、幅員3m～4m程度の舗装路及び未舗装路であり、周辺に宅地等は少なく農耕者の利用が主体となっている。

2 主要道路一覧表

（第6表）

No	路線名	管理区分別	延長 (m)	幅員 (m)		構造	改修の要否	備 考
				全幅	有効			
1	主要地方道 茅野北杜菰崎線	長野県 山梨県	28,700	10.0	7.5	アスファルト	否	
2	町道 5423 号線	富士見町	1,414	10.7	7.2	アスファルト	否	通称：オアシスの道 延長は区域外の町道5816、 5398、5817号線を含む
3	町道 小六鳥帽子線	富士見町	1,470	6.4	5.4	アスファルト	否	

第5節 地域農業の概況

1 産業別就業人口

(第7表-1)

項目 市町村名	総数 (人)	農業 (人)	林業 (人)	漁業 (人)	鉱業 採石業 砂利採取業 (人)	建設業 (人)	製造業 (人)	電気ガス 熱供給水道業 (人)	運輸 通信業 (人)	卸売業 小売業 (人)	金融業 保険業 (人)	不動産業 物品賃貸業 (人)	サービス業 (人)	公務 (人)	その他 (人)	備考
富士見町	7,223	901	25	0	6	514	1,760	17	262	699	75	73	2,592	215	84	総務省統計局「国勢調査報告書」令和2年度
計	7,223	901	25	0	6	514	1,760	17	262	699	75	73	2,592	215	84	
比率 (%)	100	12.5	0.3	0.0	0.1	7.1	24.4	0.2	3.6	9.7	1.0	1.0	35.9	3.0	1.2	

2 経営耕地広狭別農家数及び主副業別農家数

(第7表-2)

区分 市町村	総 農 家 数 (戸)	経営耕地広狭別農家数 (戸)											1戸当たり平均農用地面積 (ha)						主副業別農家数 (戸)			備考
		0.3 ha 未満	0.3 ～ 0.5	0.5 ～ 1.0	1.0 ～ 1.5	1.5 ～ 2.0	2.0 ～ 3.0	3.0 ～ 5.0	5.0 ～ 10.0	10.0 ～ 20.0	20.0 ha 以上	自給的農家	田	畑	樹 園 地	小 計	草 地	計	主 業	準 主 業	副 業	
富士見町	922	3	77	157	81	43	35	21	11	12	10	472	0.76	0.33	0.00	1.09	0.00	1.09	88	74	288	2020年農林業センサス
計	922	3	77	157	81	43	35	21	11	12	10	472	0.76	0.33	0.00	1.09	0.00	1.09	88	74	288	
比率 (%)	100	0.3	8.3	17.0	8.8	4.7	3.8	2.3	1.2	1.3	1.1	51.2										

3 動力農機具及び主要家畜頭数

(第7表-3)

項目 市町村名	動力農機具								主要家畜						備 考
	乗用型トラクター		動力田植機		コンバイン		動力防除機		乳用牛		肉用牛		採卵鶏		
	数 量 （台）	経営体数 （経営体）	数 量 （台）	経営体数 （経営体）	数 量 （台）	経営体数 （経営体）	数量 （台）	経営体数 （経営体）	数量 （頭）	経営体数 （経営体）	数量 （頭）	経営体数 （経営体）	数量 （頭）	経営体数 （経営体）	
富士見町	717	537	420	412	276	271	－	－	571	13	15	4	X	2	動力農機具：2015年農 林業センサス 主要家畜：2020年農林 業センサス 表示符号[X] 秘密保護上統計数値を 公表しないもの 表示符号[－] 調査は行ったが事実の ないもの
計	717	537	420	412	276	271	－	－	571	13	15	4	x	2	
100経営体 当たり数量 （台、頭）	133		102		102		－		4,392		375		－		
所有経営体数 割合（％）	100		100		100		－		100		100		－		

4 主要作物作付状況

(第7表-4)

市町村名			富士見町		計	平 均	作付率 (%)	備考
総耕地面積 (ha)			1008					
総本地面積 (ha)			－					
区分 作物名			作付面積 (ha)	単位面積当り 収 量 (kg/10a)	作付面積 (ha)	単位面積当り 収 量 (kg/10a)		
田	表作	水稻	376	609	376	609	50	2020年農林業センサス 、 単位面積当り収量： 長野県農林業市町村別 データ(平成19年度 版) 作付面積は、経営耕地 面積のうち販売の目的 で作付け(栽培)した 作本の類別作付(栽培) 面積である 表示符号[－] 調査は行ったが事実の ないもの
	裏作							
	小計		376	609	376	609	50	
畑	そば		159	68	159	68	21	
	ブロッコリー		32	－	32	－	4	
	レタス		26	－	26	－	3	
	キャベツ		14	－	14	－	2	
	その他野菜類		57	－	57	－	8	
	花き類(施設)		20	－	20	－	3	
	飼料作物		45	－	45	－	6	
	その他		22	－	22	－	22	
	小計		375		375		50	
樹 園 地	果樹		4	－	4	－	1	
	小計		4		4		1	
計			755		755		100	
市町村別延べ 作付け率 (%)			74.9		74.9			

5 農業の動向

(第7表-5)

項目 区分	農 家						土地			主要作物			動力農機具			主要家畜			地域 指定等	備考
		B	A	経営耕地 規模	B	A		B	A	作物名	B	A	農機具名	B	A	家畜名	B	A		
変化の状況 (C年を100とする指数)	総農家数	83	72	田	129	189	耕地	90	93	水稻	90	103	動力 田植機	65	—	乳用牛	58	42	農振 S53.3	A:2020年農林業センサス B:2010年農林業センサス C:2005年農林業センサス 表示符号[－] センサス記載なし 表示符号[X] 秘密保護上統計数値を公表しないもの 上段〔 〕は実数(ha)
	主業農家数	72	58	畑	131	177	田	89	94	そば	163	189	トラクタ ー	73	—	肉用牛	X	25	特農 H5.9	
	準主業 農家数	55	37	樹園地	238	188	畑	90	90	ブロッコ リー	92	267	コンバイ ン	58	—				都計 S50.3	
	副業的 農家数	77	58				樹園地	[6] 300	[4] 200	レタス	1150	1300								
	農業 就業人口	66	63							キャベツ	80	93								
変化の理由	農業従事者の高齢化・新規就農者の減少のため						農業従事者（経営体）の減少等により、担い手農家の経営規模が増加しているため			農業従事者の高齢化・減少により遊休後荒廃地が増え、耕地の減少が進行している			担い手への集積や作業委託が可能な水稻は規模を維持。その他は、従来作物から高標高を活かしたブロッコリーやレタスなどの高収益作物へ移行する傾向がある			農業機械の大型化、担い手農家への農作業委託が進んだため			農業従事者の高齢化・後継者不足のため	

第6節 地域環境の概況

富士見町は、本州の中央部、長野県の東南部に位置し、釜無川を境に山梨県北杜市に接している。北は茅野市、原村、西は伊那市に接し、東西約15km、南北約26km、総面積約144km²の範囲を占めている。

町の東部は、雄大な八ヶ岳連峰を背後に控え、その裾野が尾を引き、なだらかな傾斜地となっている。一方、西部は、背後に急峻な南アルプスを控え、平地が少なく起伏に富んだ地形を形成している。また、天竜川と富士川（釜無川）の分水嶺となっている。

近年の気象状況を見ると、年間平均気温が11℃前後で、年間平均降水量は1,300mm前後となっている。冬は三寒四温がくり返されるが、年間を通じて冷涼な日が多く、夏は特に高原特有の涼風が通り過ぎる快適な避暑地ともされている。

東北日本と南西日本を二分する「フォッサマグナ」が通っており、東北部の多くは八ヶ岳火山列と広大な裾野が広がり、西部は入笠・釜無山地とわずかな扇状地から成り立っている。また、八ヶ岳と赤石山脈にまたがる地域に扇状に広がる地域であり、流域は富士見峠を界として天竜川水系と富士川水系に分かれ、その面積比は天竜川水系12%（17.10km²）、富士川水系88%（127.27km²）で、過半は富士川水系に属する。一級河川としては、釜無川・宮川・甲六川・立場川・白谷川・白川・乙貝川の7河川があるが、いずれも急峻な地形で過去には河床の洗掘、護岸の崩落等の災害に見舞われている。近年、河川整備も進められているが延長が長い為、未整備部分も残っている。八ヶ岳山麓の土壌は透水性のよい火山砕屑物で構成されていて保水性に乏しく、降水の多くは短期間に流出するため、洪水と渇水に悩まされてきた。そのため、先人により町内には16箇所のため池が散在し水田地帯を潤している。

町内は下蔵木の標高720mから赤岳山頂2,899mまで、標高差は2,179mあり、温度帯でみれば、中間温帯（標高720m～1,000m）、温帯（1,000～1,600m）、亜寒帯（1,600～2,500m）、寒帯（2,500～2,899m）からなり、それぞれ特長ある植生となっている。最下部の中間温帯はクリ帯であり、アカマツ二次林、アカマツ植林地、クリ・コナラ・シデ類の雑木林で占められている。温帯はカラマツ植林地が大部分を占め、ところどころにウラジロモミ・イヌブナ・ミズナラの林を見ることができる。亜寒帯は、亜高山帯またはシラビソ帯と呼ばれる森林帯であり、標高1,900m付近までは、なお、カラマツの植林地が優先する。自然植生であるシラビソ林はこの上部に現れ、ダケカンバ・コメツガが混入している。寒帯はハイマツ帯に当たり富士見町でも十分な自然植生域であり、ハイマツをはじめ多くの高山植物が生えている。八ヶ岳にはツキノワグマ、イノシシ、カモシカ、ホンシュウジカの大型動物やキツネ、タヌキ、ハクビシン、リスなどの中型や小型の動物が生息している。また、入笠山方面では、ツキノワグマ、イノシシ、ニホンザル、カモシカ、ホンシュウジカ、アナグマ、リスなどの動物が生息している。鳥類では、山ろく地帯にシジュウカラ、ヤマガラ、エナガ、カケス、アカゲラ、キジなどが見られ、人里付近には、スズメ、ムクドリ、ヒヨドリ、オナガ等を見ることができる。昆虫類は、標高差が大きく気候や植物相の影響を受け、バラエティーに富んでいる。魚類は全般的に急流が多いため、上流域はイワナ、アマゴ、ヤマメ、カジカなどが主で、下流域にアブラハヤなどが見られる。

富士見町東部に位置する高森地区は、富士見町田園環境整備マスタープランにおいて「環境配慮区域」に区分されている。

第4章 一般計画

第1節 事業計画の要旨

1 要旨

本地区は、第1次農業構造改善事業により25a程度の区画で整備された水田農業地帯である。現在、水稻を中心に牧草、そば、花卉等の栽培が行われているが、一方で湿害等耕作条件が悪い農地も多く、営農に支障を来している。そのため営農者の高齢化により多くの農家が貸出を希望するが、条件不利地により借手がいない状況となっている。また、建設から50年以上経過した既設水路の劣化は著しく、漏水による用水不足や周辺農地への湿害等被害にも繋がっていることから、水路機能の適正化および農業経営の安定化を図るためにも早急な整備を必要としている。

そのため本事業にて、条件不利地の解消や再整備による大区画化を図り、併せて農地中間管理事業を活用した中心経営体への農地集積・集約化を行い畑地化を進めることにより、レタス、トマト等の高収益作物に転換し、持続可能な農業の推進を図る。

2 事業別面積

(第8表)

事業名 土地利用区分 事業目的	区画整理						計 (ha)	備 考
	水田	普通畑	牧草畑	果樹園	...	小計		
	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)		(ha)		
区画整理	5.4	24.6				30	30	
用水改良	(5.4)	(24.6)						() 区画整理と重複で内数
排水改良	(5.4)	(24.6)						() 区画整理と重複で内数
暗渠排水	(3.7)	(8.9)						() 区画整理と重複で内数
客土工		(11.1)						() 区画整理と重複で内数
計	5.4	24.6				30	30	

第2節 営農計画及び土地利用計画

1 営農計画の概要

本地区の水田地帯では、稲作を中心として、転作作物の花弁やそば、牧草等の複合経営が展開されている。

本事業の導入を契機に、地域計画で中心経営体と位置付けられる認定農業者へ農地を集積・集約化し、地域農業の経営基盤強化を図る。そのため、区画拡大、用排水施設、農道整備、暗渠排水を行うことで、レタスや生食トマト等の高収益作物への栽培面積の拡大を図り、農業生産効率を向上させる。

2 土地利用区分

(第9表-1)

事業名	土地利用 区分	耕 地							採草 放牧地 (ha)	原野 (ha)	山林 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備 考
		水田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草畑 (ha)	果樹園 (ha)	茶園 (ha)	その他の 樹園地 (ha)	小計						
区画 整理	現況	30						30					30	
	計画	5.4	24.6					30					30	
計	現況	30						30					30	
	計画	5.4	24.6					30					30	

3 作付方式

(第9表-2)

事業名	項目	経営 類型	土地 利用 区分	1年目												2年目												3年目												備 考						
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12							
区画 整理	現況	水稻	田				○	△	■					×					○	△	■					×						○	△	■					×							
	現況	そば	田							○	■			×								○	■			×								○	■			×								
	現況	牧草	田	■					○	■			×	×	×	×	■						○	■			×	×	×	×	■					○	■			×	×	×	×	■		
	現況	レタス	田				○	△	■			×	×	×	×					○	△	■			×	×	×	×				○	△	■			×	×	×	×						
	現況	キャベツ	田					○	○	△	■			×	×						○	○	△	■			×	×					○	○	△	■			×	×						
	現況	バラ	田				△	■			×	×	×							△	■			×	×	×						△	■			×	×	×								
	計画	水稻	田				○	△	■					×						○	△	■					×						○	△	■					×						
	計画	そば	畑							○	■			×									○	■			×								○	■			×							
	計画	牧草	畑	■					○	■			×	×	×	×	■						○	■			×	×	×	×	■					○	■			×	×	×	×	■		
	計画	トマト	畑		○	○	△	■			×	×	×	×	×			○	○	△	■			×	×	×	×	×			○	○	△	■			×	×	×	×	×					
	計画	レタス	畑				○	△	■			×	×	×	×					○	△	■			×	×	×	×				○	△	■			×	×	×	×						
	計画	キャベツ	畑					○	○	△	■			×	×						○	○	△	■			×	×					○	○	△	■			×	×						
	計画	バラ	畑				△	■			×	×	×							△	■			×	×	×						△	■			×	×	×								

○：播種 △：移植 ×：収穫

4 生産計画

(第9表-3)

事業名	項目 土地利用区分		作物名	作付面積 (ha)			作付率 (%)		単位面積当たり収量 (kg/10a)			生産量 (t)			同左生産量増減の内訳 (t)		備 考
				現況	計画	増減	現況	計画	現況	計画	増減	現況	計画	増減	面積増減	単位面積 当たり収量 増加	
区画 整理	水 田	表 作	水稻	8.3	4.4	△3.9	34	16	615	652	37	51.0	28.7	△22.9	△24.0	1.1	
			そば	4.1	0	△4.1	17	—	62	—	△62	2.5	—	△2.5	△2.5		
			牧草	6.5	0	△6.5	26	—	4,030	—	△4,030		—	△262.0	△262.0		
			バラ	2.0	0	△2.0	8	—	(千本/10a) 53	—	(千本/10a) △53		—	(千本) △848	△848		
			その他	3.7	0	△3.7	15	—									
		裏 作															
	普 通 畑	春 夏 作	そば	0	2.3	2.3	—	8	—	62	62	—	1.4	1.4	1.4		
			牧草	0	1.5	1.5	—	5	—	4,030	4,030	—	60.5	60.5	60.5		
			トマト	0	6.4	6.4	—	23	—	3,210	3,210	—	128.4	128.4	128.4		
			レタス	0	9.1	9.1	—	32	—	3,200	3,200	—	291.2	291.2	291.2		
			キャベツ	0	1.6	1.6	—	6	—	3,330	3,330	—	53.3	53.3	53.3		
			バラ	0	2.9	2.9	—	10	—	(千本/10a) 53	(千本/10a) 53	—	(千本) 1,219.0	(千本) 1,219.0	(千本) 1,219.0		
	計			24.6	28.2	3.6											
	合計			24.6	28.2	3.6											

5 労働改善計画

(第9表-4)

事業名	項目 土地 利用区分	作物名	作付面積 (ha)	単位面積当たり労働投下量(hr/10a)				備 考
				区分	現況	計画	増減	
区画整理	水田	水稻	4.4	人力	12	10	2	25a区画（小区画・湿田）→ 30a区画（中区画・乾田）
				機械力	5	4	1	
	普通畑	レタス	9.1	人力	103	93	10	25a区画（小区画・湿田）→ 50a以上（大区画・乾畑）
				機械力	41	33	8	
		キャベツ	1.6	人力	75	70	5	
				機械力	36	32	4	
	計			15.1				
合計			15.1					

6 級地別土地利用区分

該当なし

第3節 用水計画

1 計画基準年

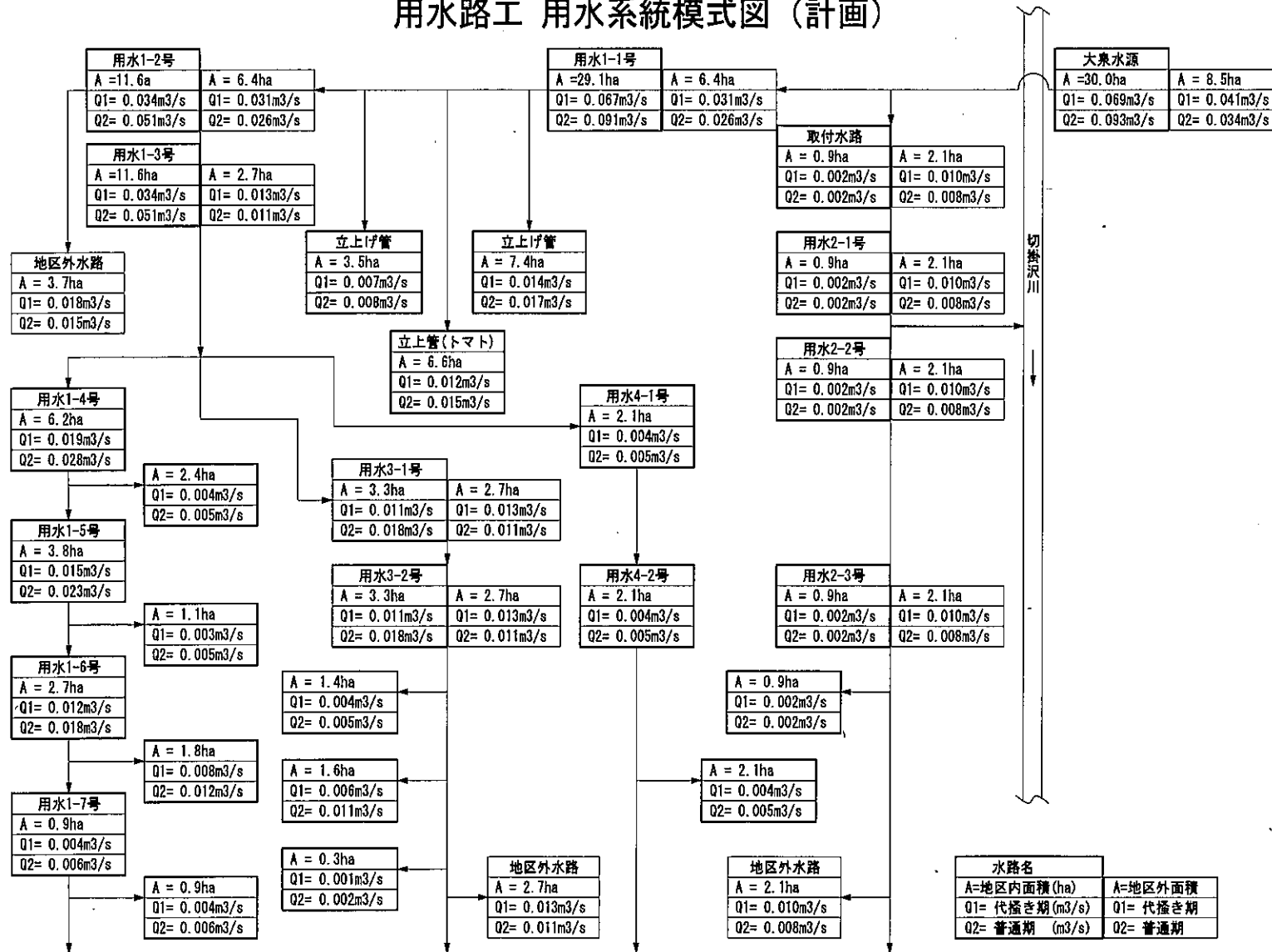
昭和42年（1級河川立場川 河川渇水量 1/10年確立）

2 計画かんがい方式

水田	水 稲：湛水かんがい	かんがい期間 (代かき期間)	4月下旬～ 9月中旬 4月下旬～ 5月上旬	11日間)
	畑作物：散水かんがい (移動式)	かんがい期間	5月上旬～ 9月上旬	

3 計画用水系統

用水路工 用水系統模式図 (計画)



4 計画用水量

(1) かんがい用水

(第10表-1-1)

項目 系統名	種別	面積 (ha)			水田かんがい			水田畑利用			畑地かんがい			その他		消費 水量 (m³/s)	損失率 (%)	粗用水量		備 考
		事業名			普通期	代かき期	面積 (ha)	一日 当たり 計画 平均 かん 水深 (mm/日)	平均 間断 日数 (日)	面積 (ha)	一日 当たり 計画 平均 かん 水深 (mm/日)	平均 間断 日数 (日)	面積 (ha)	計画 平均 単位 用水量 (mm/日)	面積 (ha)			平均	最大	
		区画 整理	計	計画平均 単 位 用水量 (mm/日)																
大泉水源	農業 用水	30.0		30.0	23.0	125	5.4				4	5	24.6			0.057	15	0.062	0.070	
計		30.0		30.0			5.4						24.6							

(2) 営農飲雑用水

該当なし

5 水源計画

(1) 水利用計画

(第10表-2)

項目 区分		消費水量	有効雨量	純用水量	粗用水量	現況利用可能水量			不足水量		水源依存量		水源 工種	備 考
						水源名	取水地点 利用可能量	ほ場利用 可 能 量	純不足水量	全不足水量	水源名	水量		
		a (千 m^3)	b (千 m^3)	c = a - b (千 m^3)	$d = \frac{c}{(1-\alpha)}$ (千 m^3)		e (千 m^3)	f (千 m^3)	g = c - f (千 m^3)	h = d - e (千 m^3)		(千 m^3)		損失率 : α
農業用 用排水	既水田 かんがい	1,509	0	1,509	1,735	大泉水源	1,735	1,735			1,735	1,735	湧水池	0.15
	計	1,509	0	1,509	1,735		1,735	1,735				1,735		

(2) 用水対策

(ア) 貯水池

該当なし

(イ) 井堰及び自然取入口

該当なし

(ウ) 揚水機

該当なし

(エ) 用水路

(第10表-6)

項目 名称	かんがい面積 (ha)			最大通水量 (m ³ /s)	延 長 (km)	構 造	備 考
	事業名						
	区画整理		計				
用水 1 号	29.1		29.1	0.117	1.53	BF800～500	
用水 2 号	0.9		0.9	0.012	1.02	重荷重水路 1000×800 BF400～BF350	
用水 3 号	(3.3)		(3.3)	0.029	0.76	BF400～BF250	用水1号の末端水路で重複
用水 4 号	(2.1)		(2.1)	0.005	0.43	BF300 台付管 φ 300	用水1号の末端水路で重複
計	30.0		30.0		3.74		

(オ) その他の水源施設

該当なし

(3) 水温水質

該当なし

第4節 排水計画

1 計画基準雨量

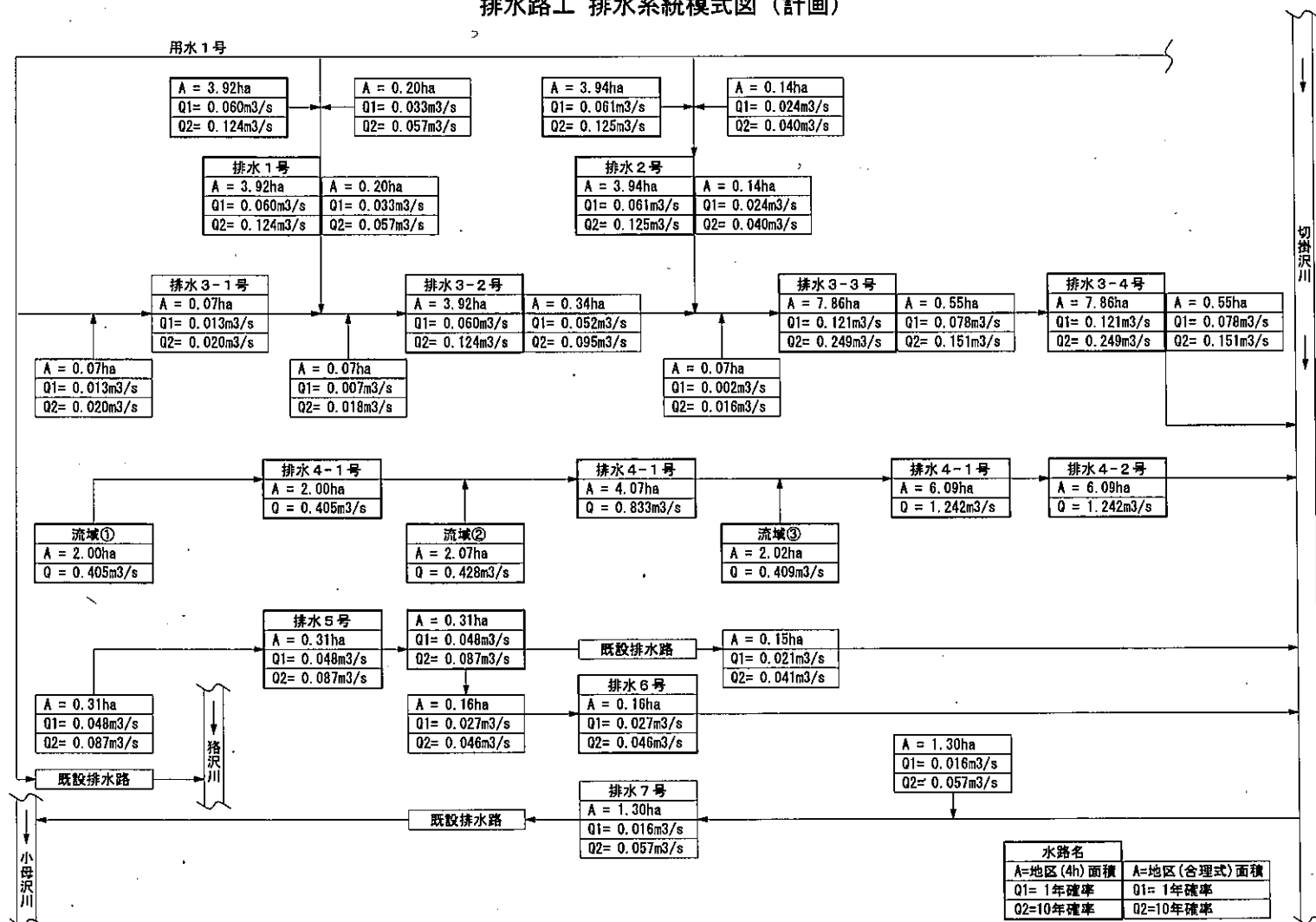
日雨量 : 109.73mm (1/10確率降雨量)
アメダス観測結果岩井法による確率計算 (観測所名: 原村)

2 計画排水方式

排水方式 : 自然排水
4時間雨量・4時間排除

3 計画排水系統

排水路工 排水系統模式図 (計画)



4 計画排水量

(第11表－1)

項目 系統名	受益面積 (ha)			流域面積 (km ²)		基準 雨量 (mm)	降雨による 直接単位流出量 (m ³ /s/km ²)		基底流出量 (m ³ /s/km ²)		全排水量 (m ³ /s)			単位排水量 (m ³ /s/km ²)		備 考
	事業名						山地	平地	山地	平地	山地	平地	自然排水	機械排水	山地	
	区画 整理		計	山地	平地											
高森	30		30		0.495	109.73						3.412			6.90	
計	30		30		0.495							3.412			6.90	

5 排水対策

(1) 排水水門

該当なし

(2) 排水機

該当なし

(3) 排水路

(第11表-4)

項目 名称	流域面積 (km ²)	受益面積 (ha)			計画排水量 (m ³ /s)	延長 (km)	構造	排水本川			備 考
		事業名						名称	計画洪水量 (m ³ /s)	計画洪水位 (m)	
		区画 整理		計							
排水 1 号	0.041	(3.92)		(3.92)	(0.181)	0.27	ベンチリウム 350	切掛沢川	3.412		() は排水 3 号と重複
排水 2 号	0.041	(3.94)		(3.94)	(0.165)	0.24	ベンチリウム 350	切掛沢川	3.412		〃
排水 3 号	0.212	11.78		11.78	0.4	0.59	車道用U字溝 240~600	切掛沢川	3.412		
排水 4 号	0.183	6.09		6.09	1.242	0.58	自由勾配側溝 800×800 ~1800	切掛沢川	3.412		
排水 5 号	0.003	0.31		0.31	0.087	0.11	自由勾配側溝 300×500	切掛沢川	3.412		
排水 6 号	0.002	(0.16)		(0.16)	(0.046)	0.08	ベンチリウム 500	切掛沢川	3.412		() は排水 5 号と重複
排水 7 号	0.013	1.3		1.3	0.057	0.25	ベンチリウム 400	小母沢川			
計	0.495	19.48		19.48	1.786	2.12					

6 湛水検討

該当なし

第5節 道路計画

1 道路及び索道

(1) 道路

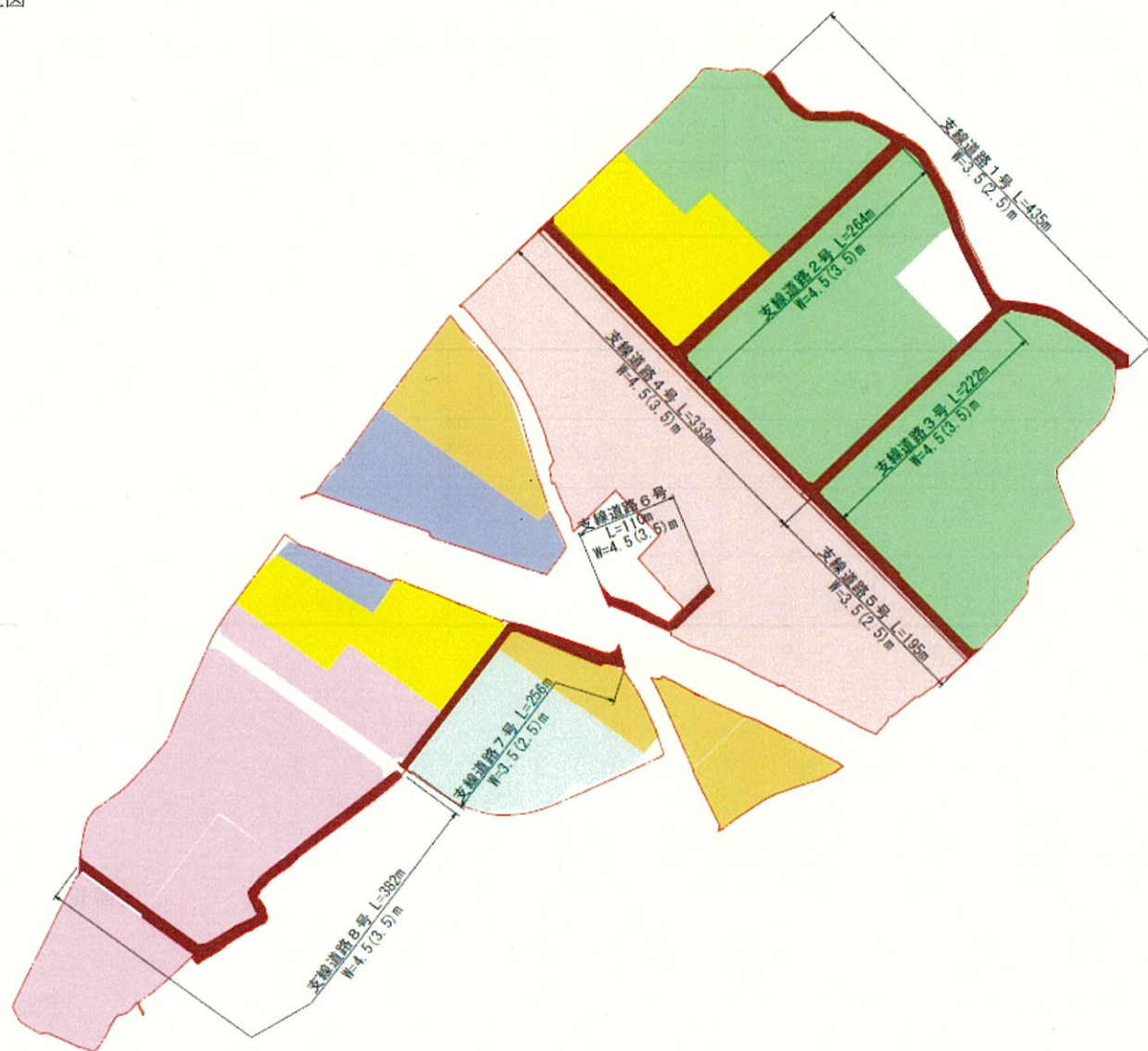
(第12表-1)

路線名	項目	幅(有効)×延長 (m) (km)	構 造	既設道路との関係	備 考
支線道路1号		3.5 (2.5) × 0.435km	アスファルト		
支線道路2号		4.5 (3.5) × 0.264km	アスファルト		
支線道路3号		4.5 (3.5) × 0.222km	アスファルト		
支線道路4号		4.5 (3.5) × 0.333km	アスファルト		
支線道路5号		3.5 (2.5) × 0.195km	アスファルト		
支線道路6号		4.5 (3.5) × 0.110km	アスファルト		
支線道路7号		3.5 (2.5) × 0.256km	アスファルト		
支線道路8号		4.5 (3.5) × 0.382km	アスファルト		

(2) 索道

該当なし

2 路線配置図



第6節 農用地造成計画

該当なし

第7節 洪水調節計画

該当なし

第8節 農用地整備計画

1 区画整理

(1) 区画の形状

(第15表-1)

長辺×短辺 (m)	区画面積 (ha)	全体面積 (ha)	割合 (%)	田面差 (m)	備考
150×70	1.0ha以上	12.4	41		
140×35	0.5ha以上	9.7	32		
75×35	0.3ha以上	4.8	16		

(2) 表土扱い

(第15表-2)

面積 (ha)	表土扱い要否の理由	扱い深 (cm)	土量 (m3)	備考
28.2	要（耕土の確保）	15	42,300	

(3) 末端道水路配置図

該当なし

2 暗渠排水
(1) 暗渠排水

(第15表－3－1)

項目 区分	面積 (ha)			土壌統(区)名	基準雨量 (mm/日)	単位排水量 (L/s/ha)	計画後の 地下水位 (m)	集水渠出口以下 の排水方式	備 考
	事業名								
	区画整理		計						
高森工区	12.6		12.6	払沢統			0.6	水路	
計	12.6		12.6						

(2) 心土破碎

該当なし

3 客 土

(第15表－4)

項目 区分	面積 (ha)			土壌統 (区)名	減水深 (mm/日)		作土の厚さ (cm)		10a当り 客土量 (m3)	土壌の性質		備 考
	事業名				現況 平均	計画 平均	現況 平均	計画 平均		受益地 (%)	採土地 (客土 材料) (%)	
	区画整理		計									
高森工区	11.1		11.1	払沢統	23.0	23.0	15	20	73	100	-	
計	11.1		11.1		23.0	23.0	15	20	73	100		

第9節 老朽ため池改修計画

該当なし

第5章 主要工事計画

第1節 用水施設

1 貯水池

該当なし

2 頭首工

該当なし

3 揚水機

該当なし

4 用水路

(第16表-4)

水路名	項目	かんがい面積 (ha)		通水量 (m³/s)	延長 (km)			構造	勾配	主要構造物	備 考
	事業名				開きよ	トンネル その他	計				
	区画整理		計								
用水1号	29.1		29.1	0.117～0.006	1.53	0	1.53	コンクリート	1/13～500	ベンチリュウム	
用水2号	0.9		0.9	0.012	0.94	0.08	1.02	コンクリート	1/11～700	ベンチリュウム 重荷重水路	
用水3号	(3.3)		(3.3)	0.029	0.76	0	0.76	コンクリート	1/14～30	ベンチリュウム	用水1号の末端水路で重複
用水4号	(2.1)		(2.1)	0.005	0.26	0.17	0.43	コンクリート	1/15～220	ベンチリュウム 台付管	用水1号の末端水路で重複
計	30.0		30.0		3.49	0.25	3.74				

5 その他かんがい施設

該当なし

第2節 排水施設

1 排水水門

該当なし

2 排水機

該当なし

3 排水路

(第17表-3)

水路名	項目	かんがい面積 (ha)		排水量 (m³/s)	延長 (km)			構造	勾配	主要構造物	備 考
	事業名				開きよ	トンネル その他	計				
	区画 整理		計								
排水 1 号	(3.92)		(3.92)	(0.181)	0.27		0.27	二次製品水路	1/17	ベンチリュウム	() は排水 3 号と重複
排水 2 号	(3.94)		(3.94)	(0.165)	0.24		0.24	同上	1/14	ベンチリュウム	〃
排水 3 号	11.78		11.78	0.4	0.53	0.06	0.59	同上	1/155～167	車道用U字溝	
排水 4 号	6.09		6.09	1.242	0.51	0.07	0.58	同上	1/250～580	自由勾配側溝	
排水 5 号	0.31		0.31	0.087	0.11		0.11	同上	1/60	自由勾配側溝	
排水 6 号	(0.16)		(0.16)	(0.046)	0.08		0.08	同上	1/700	ベンチリュウム	() は排水 5 号と重複
排水 7 号	1.3		1.3	0.057	0.25		0.25	同上	1/335	ベンチリュウム	
計	19.48		19.48	1.786	1.99	0.13	2.12	同上			

4 その他排水施設

該当なし

第3節 道路及び索道

1 道路

(1) 道路の総括表

(第18表-1)

路線名	項目 幅(有効)×延長 (m) (km)	構 造	附帯構造物			最急勾配 (%)	同左の延長 (m)	最小曲線半径 (m)	備 考
			名称	構造	数量(か所)				
支線道路1号	3.5 (2.5) × 0.435	アスファルト							
支線道路2号	4.5 (3.5) × 0.264	アスファルト							
支線道路3号	4.5 (3.5) × 0.222	アスファルト							
支線道路4号	4.5 (3.5) × 0.333	アスファルト							
支線道路5号	3.5 (2.5) × 0.195	アスファルト							
支線道路6号	4.5 (3.5) × 0.110	アスファルト							
支線道路7号	3.5 (2.5) × 0.256	アスファルト							
支線道路8号	4.5 (3.5) × 0.382	アスファルト							
計	2.197								

(2) 道路主要構造物

該当なし

2 索道

該当なし

第4節 農用地造成

該当なし

第5節 洪水調節施設

該当なし

第6節 農用地整備施設

1 区画整理

(1) 区画整理

(第21表-1)

工区名	面積 (ha)	整地工		表土扱い		備考
		標準区画	土量 (m3)	面積 (ha)	土量 (m3)	
高森工区	30.0	105a (70×150) 49a (35×140)		28.2	42,500	(面整備)

2 暗渠排水

(1) 暗渠排水

(第21表-4-1)

区分	項目	面積 (ha)		集水渠				吸水渠						集水渠出口以下の排水施設			備考
		事業名		勾配	管種	管径 (mm)	延長 (m/ha)	勾配	管種	管径 (mm)	深さ (m)	間隔 (m)	延長 (m/ha)	名称	構造	数量 (m/ha)	
		区画整理	計														
高森工区		12.6		12.6	1/500	硬質ポリエチレン無孔管	75		1/500	硬質ポリエチレン有孔管	75	0.8	20		排水路	BF等	
計		12.6		12.6													

3 客土

(第21表～5)

項目 区分	面積 (ha)			客入土量 (m3)	土取場土量 (m3)	運搬距離 (km)	運搬方法	備考
	事業名							
	区画整理		計					
高森工区	11.1		11.1	8,100	8,100	0.8		
計	11.1		11.1	8,100	8,100	0.8		

第7節 老朽ため池改修施設

該当なし

第6章 附帯工事計画

該当なし

第7章 工事の着手及び完了の予定時期

着手	令和	7年度
完了	令和	13年度

第8章 環境との調和への配慮

富士見町の東部は雄大な八ヶ岳連峰を背後に控え、その裾野が尾を引き、なだらかな傾斜地となっている。その中で高森地区は、町内の耕地の中では比較的高い標高900m～1,400mに位置している。

高森地区は、富士見町田園環境整備マスタープランにおいて「環境配慮区域」に区分されており、本事業の実施にあたり環境配慮5原則に基づき環境に配慮した工事を実施していく。本地区は、農地の切盛土工事が主である。また、農道については、現道の路盤を利用し路盤工及び舗装工を実施し、水路については、既設水路を撤去し、新たに二次製品水路を布設するものである。現場で使用する工事用重機及びダンプトラックは排出ガス対策型を使用し、地域環境への影響を最小限にとどめる。

第9章 換地計画の概要

第1節 換地計画を作成する上での基本的な考え方

本地区の換地計画では、担い手及び育成すべき経営体への農地の利用権集積を重視し、換地計画を作成する。

第2節 換地区の設定

1 換地区の名称、所在、面積

(第23表－1)

換地区名	換地区の所在	面積 (ha)
高森工区	長野県諏訪郡富士見町境、落合	33.5

2 換地区を設定する理由

農地中間管理機構による担い手への農地の集積・集約化を図るにあたり、農用地の集団化に資するよう区画整理を行うため。

第3節 換地区計画樹立の基本方針

1 従前の土地の地積の基準

(第23表－2)

換地区名	地積の基準
高森工区	土地改良事業計画確定の日の登記簿地積とする。 ただし、上記の日から3ヵ月以内に測量士、測量士補又は土地家屋調査士の測量した実測図及び隣接所有者の同意書を添付して申出があった場合は、その申出のあった地積とする。

2 用途別予定地積

(単位: ha) (第23表-3)

用途 (取得予定者) 換地区名 前後		非農用地区域外に換地する土地												非農用地区域に換地する土地										機能交換に係る土地					一般 国公有地	総合 合計
		田	畑	山林・原野	その他	通常事業施行地域に含める土地 (令第1条の9 括弧書き)			計	本事業によって生ずる土地改良施設用地			創設農用地	合計	宅地	その他	計	異種目換地	創設非農用地					合計	国	県	市町村他	合計		
						土地改良施設	その他	小計		土地改良区	その他	計							農業経営合理化施設用地	生活上・経営上必要な施設用地	公用・公共用施設用地	宅地等	計							
高森工区	従前の土地	30.0	0.0						30.0					30.0		0.4	0.4						0.4			3.1	3.1		33.5	
	換地	5.4	24.6						30.0					30.0		0.4	0.4						0.4			3.1	3.1		33.5	
合計	従前の土地	30.0	0.0						30.0					300		0.4	0.4						0.4			3.1	3.1		33.5	
	換地	5.4	24.6						30.0					30.0		0.4	0.4						0.4			3.1	3.1		33.5	

3 農用地集団化の方針

(第23表-4)

換地区名	区分	地帯別、グループ別 団地の設定	個人別換地の方法		
			位置の選択方法	1戸当たり目標団地数	区画畦畔の取扱い
高森工区		予定されている担い手農家に農地を集団化する	換地は、各人の従前の土地が最も密集した位置を中心に定め、概ね2団地以内を目標とする。	1~2	畦畔は、配分面積に応じて移動して定めるものとする。畦畔の配分の設定に当たり、短辺が10m以下となるような設定はしない。
		農用地利用集積促進集団化	担い手及び農業生産法人への利用権等利用集積が確実な農用地については、担い手及び農業生産法人の経営農用地をできるだけ集約化する。	1~2	担い手及び農業生産法人の耕作する農地の畦畔は、営農効率、経営規模等を考慮し、移動して定めるものとする。

4 非農用地換地の方法

(第23表－5)

区分 換地区名	用 途	非農用地区域の 位置の概略	面 積 (m3)	換地の手法	換地取得予定者	その他
高森工区	雑種地	従前の位置	4370	特定用途用地	所有者	スミ切

第4節 土地の評価及び清算の方法

1 評価の方法

条件差差積計算方式

地区の土地の状況を標準地区域内の土地と、条件差区域内の土地に区分し、各条件差項目を選択し、増減点数率と増減点数を、採点表を作成する。評価委員会が、従前の土地と換地をそれぞれブロック別に、各評価項目について採点する。標準地の評価点数に条件差項目の増減点数を加えて条件差区域内の土地の評価点数とし、当該点数に対応する等位に格付ける。

2 清算の方法

条件差差積清算

従前地価格×（地区内の換地価額総額÷地区内の従前地価額総額）の換地交付基準額と換地価額との差額を換地計画に定めて、清算金を徴収し又は支払いをする。

第5節 換地計画樹立の年度計画

(第23表－6)

換地区名	区分	一時利用地の指定 予定年度	換地計画の決定 予定年度	換地処分 予定年度	備 考
高森工区		令和10.11年度	令和12年度	令和13年度	

第6節 換地処分の時期に関する特則

換地区内全部について区画変更の工事が完了し、確定測量が行われた時は、土地改良法第89条の2第10項において準用する同法第54条第2項ただし書きの規定に基づき、換地処分を行うことができる。

第10章 事業費の総額及び内訳

(第24表)

区分 \ 事業名		区画整理 (千円)	計 (千円)	備 考
主要工事		1,020,000	1,020,000	令和6年度単価
附帯工事		—	—	
計		1,020,000	1,020,000	
関連事業 (参考)				

第11章 効用

(第25表)

事業名	区分	項目	年総効果(便益)額 (千円)	現況年総農業所得額 (千円)	年総増加農業所得額 (千円)	備 考
区画整理		食料の安定供給の確保に関する効果	78,028		110,398	
		農業の持続的発展に関する効果	3,410		—	
		農村の振興に関する効果			—	
		多面的機能の発揮に関する効果			—	
		その他の効果	11,557		—	
		計	92,995	13,073	110,398	令和6年度単価
合計		食料の安定供給の確保に関する効果	78,028		110,398	
		農業の持続的発展に関する効果	3,410			
		農村の振興に関する効果				
		多面的機能の発揮に関する効果				
		その他の効果	11,557			
		計	92,995	13,073	110,398	令和6年度単価

年総効果(便益)額 1,720,978 千円
 総費用 1,006,844 千円
 総費用総便益比 1.70

第12章 関連する事業

該当なし

第13章 現況・計画図面

- 1 現況平面図
別紙参照
- 2 計画平面図及び土地利用計画図
別紙参照
- 3 主要構造図
別紙参照

県営高森地区土地改良事業計画 現況平面図

S=1:50,000

県内位置図



高森地区
受益面積 A=30.0ha

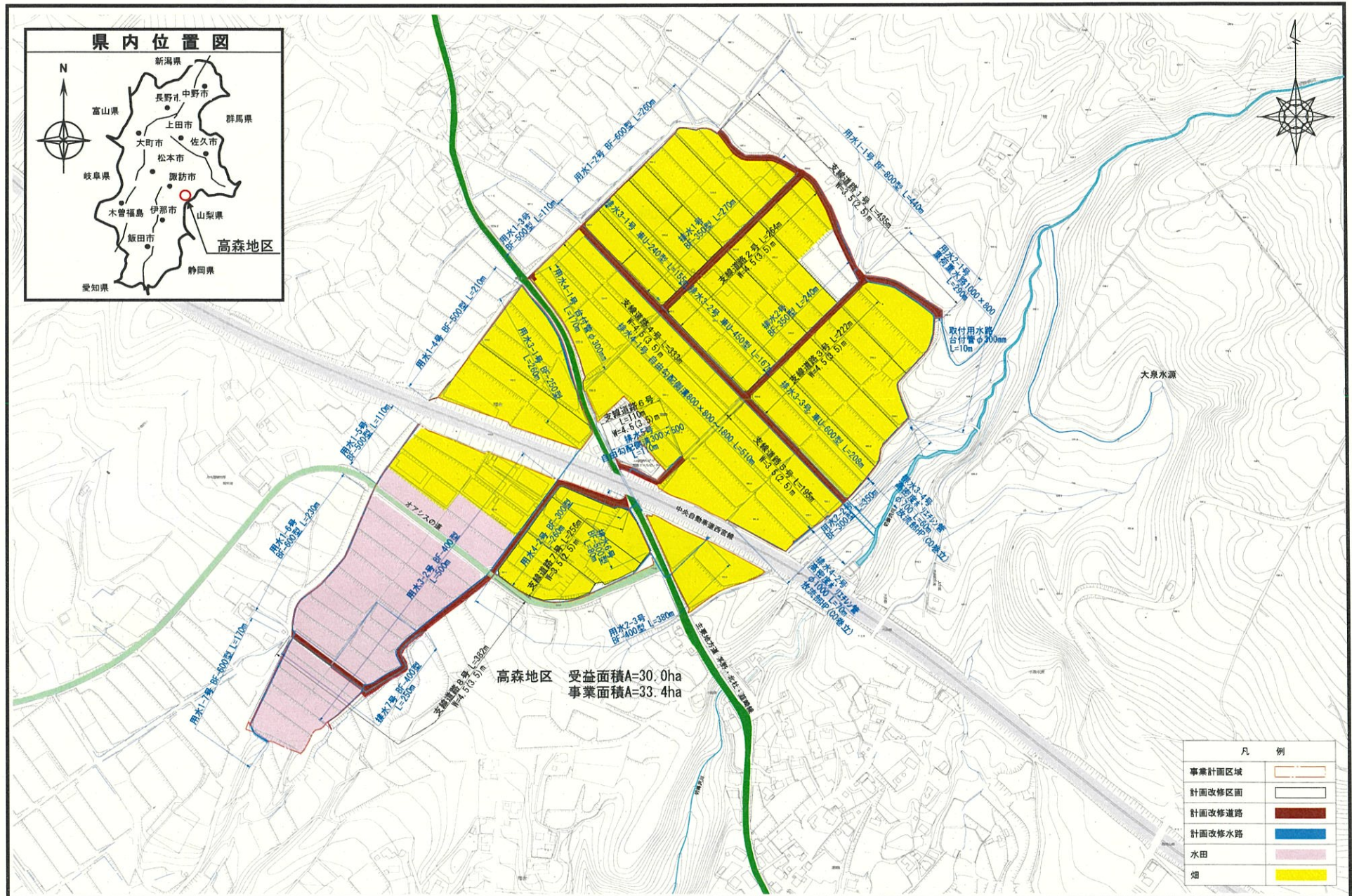
事業概要

受益面積		30.0ha
主要工事	区画整理	A=30.0ha
	用水路工	L=3,740m
	排水路工	L=2,120m
	農道工	L=2,197m
	暗渠排水工	A=12.6ha
	客土工	A=11.1ha
事業費		1,020,000千円
関連事業費		—
事業主体		長野県

凡 例

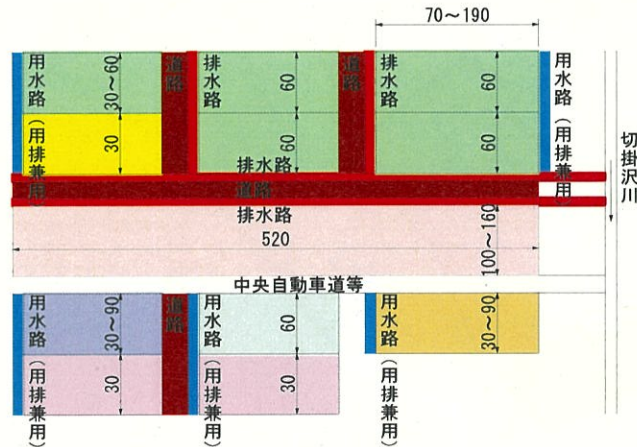
市町村界	— · — ·
受益地	○
中央自動車道	— (thick purple line) —
国 道	— (thick blue line) —
主要地方道	— (thick green line) —
県 道	— (thick orange line) —
広域農道	— (thick brown line) —
河 川	— (blue line) —

県営高森地区土地改良事業計画 計画平面図及び土地利用計画図

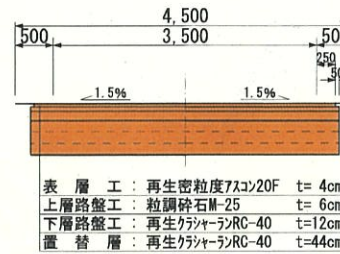


県営高森地区土地改良事業計画 主要構造図 (その1)

標準区割図



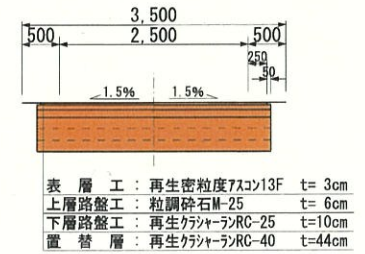
支線道路6・8号



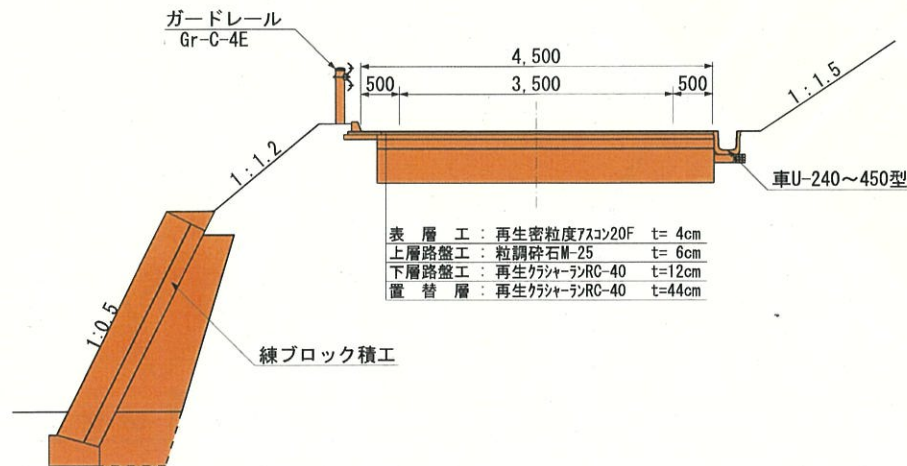
支線道路2・3・8号



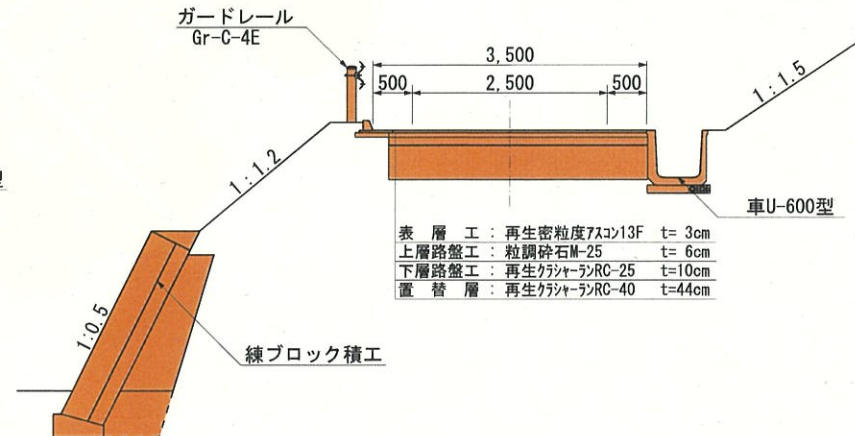
支線道路1・5・7号



支線道路 4 号

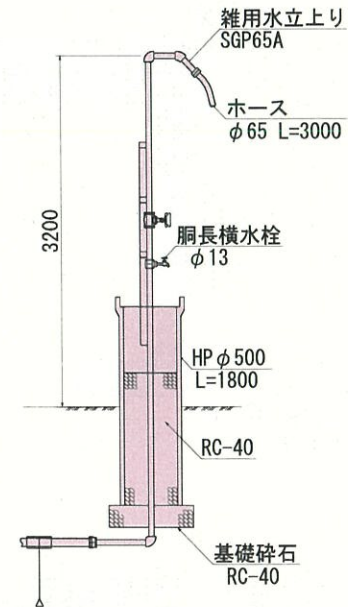
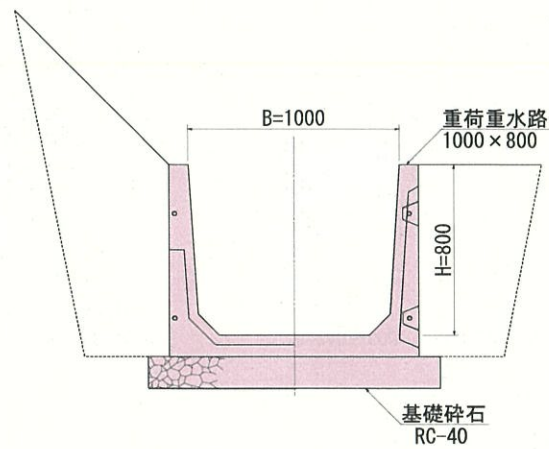
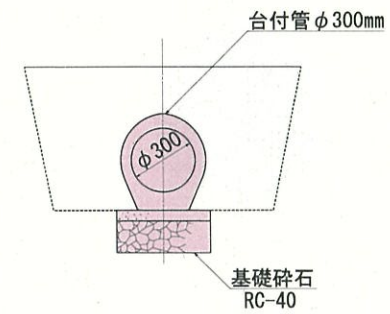
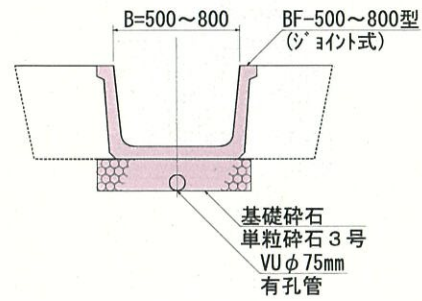
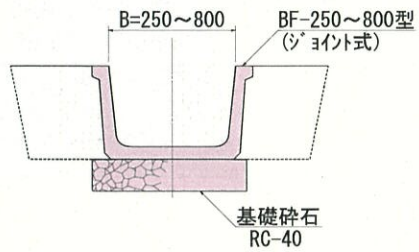


支線道路5号



県営高森地区土地改良事業計画 主要構造図 (その2)

用水路工



県営高森地区土地改良事業計画 主要構造図 (その3)

排水路工

